



## 優良な棚田に認定

「つなぐ棚田遺産」認定式・3/25

No.6

比和町三河内地域の棚田が、優良な棚田を認定する「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に選定され、比和自治振興センターで認定式が行われました。

これは、農林水産省が棚田地域の振興に関する取り組みを積極的に評価するために実施したもので、全国で271地区が選定されました。

認定式では、中国四国農政局広島県拠点の滝沢秀樹地方参事官が、認定団体である比和自治振興区の若林隆志区長へ認定書を授与しました。

若林区長は「優良な棚田に認定されたことをうれしく思う。この棚田を地域の皆さんと守っていききたい」と話しました。



▲滝沢参事官（左）と若林区長

## 農業の発展に貢献

「緑白綬有功章」の受賞を報告・3/30

No.5

東城町の藤本勲さんが、農事功績者へ贈られる「緑白綬有功章」を受賞し、木山市長に報告しました。

この賞は、地域農業の発展に貢献する農業経営者を対象に、公益社団法人大日本農会が選定するもので、本年は全国で56人が受賞しました。

今回の受賞は、和牛繁殖と稲作の複合経営による自家製堆肥の活用と、水稻アイガモ農法で環境に配慮した農業経営を行っていることや、広島県稲作経営者会議副会長として、地域農家との交流や農業研修を実施し、農業の価値を伝えることに尽力したことが高く評価されました。



▲木山市長（左）と藤本さん

## 伝統芸能の和太鼓を披露

和太鼓演奏発表会・3/15

No.8

総領自治振興センターで「和太鼓演奏発表会」が開催され、総領小6年生10人が演奏を披露しました。

これは総領地域の伝統芸能を受け継ぐため、同小学校で企画されたものです。

児童は、市内で和太鼓の演奏を行っている総領響心太鼓の指導のもと、昨年12月から練習を始め、太鼓を叩く時の姿勢や基本的なリズムの取り方など、さまざまな練習を行ってきました。

発表会当日、児童は緊張しながらも和太鼓を叩き、全校生徒の前で迫力のある演奏を披露しました。演奏した児童は「みんなと練習するたびに、だんだんと音が揃ってきたので嬉しかった。練習の成果が発揮できてよかった」と話しました。



▲発表会で和太鼓を披露する児童

## 発掘60周年を記念して

帝釈峡遺跡群発掘60周年記念碑除幕式・3/27

No.7

帝釈峡遊歩道の入口にモニュメント（記念碑）が設置され、除幕式が行われました。

これは帝釈峡遺跡群発掘60周年を記念して、帝釈自治振興区と帝釈地域の関係団体が一体となって企画・設置したものです。

除幕式で、木山市長は「これを契機に、帝釈峡遺跡群の歴史的価値が改めて注目され、帝釈峡全体の発展に寄与することを期待している」と話し、同自治振興区の表長則会長は「発掘から60年という長い年月が経過し、帝釈峡遺跡群の関心が低くなっている。この事業をきっかけに遺跡巡りツアーなど、たくさんの人に帝釈峡遺跡群の歴史を知ってもらおう活動を行いたい」と話しました。



▲高さ2メートル×幅2.5メートルのモニュメント

## 芸備線利用記念にどうぞ

備後西城駅で「御乗印」を配布・4/1

No.2

備後西城駅では乗降客に、乗車記念証「御乗印」が無料で配布されています。

これは備後西城駅の管理を委託されている西城町観光協会が、旅の記念になるものがほしいとの利用者の声に応えるために実施しました。

御乗印はポストカードサイズで、西城町のシンボルである大富山と西城川、列車に乗るヒバゴンが描かれており、裏面は新しく作成した駅スタンプを押せるようになっています。

受け取った人は「乗車の記念に御乗印がもらえてうれしかった。他の駅でも実施してほしい」と話しました。御乗印は先着で、限定1,000枚配布される予定です。



▲備後西城駅で手渡されている御乗印

## ニュースポーツを楽しむ

「モルック」「ポッチャ」の体験教室・4/5

No.4

比和自治振興区が地域交流を目的に、ニュースポーツの体験教室を開催し、子ども8人が参加しました。

ニュースポーツとは、20世紀後半以降に考案された、勝敗にこだわらず気軽に楽しむことができるスポーツです。

今回は、あけぼの荘で木製のピンを倒して得点を競う「モルック」や、目標となる白いボールに色の付いたボールを投げ、位置を競う「ポッチャ」が行われました。子どもたちは、初めて体験するニュースポーツに少し戸惑いながらも楽しんでいました。

競技を体験した子どもは「簡単そうに見えて難しかった」「自分で考えたおりにゲームが進むと楽しかった」と話しました。



▲モルックを楽しむ子どもたち

## 春の庄原を彩るイベント

第6回庄原さくらフェスティバル・4/10

No.1

上野総合公園で「庄原さくらフェスティバル」が開催されました。

このイベントは春の庄原を盛り上げることを目的に、さくらフェスティバル実行委員会が企画し、今回で6回目の開催となりました。

会場では、フラダンスなどのステージイベントやキッチンカーなど70を超える出店が並び、会場を盛り上げました。また、天井が開く2階建てのバス（オープントップバス）も運行され、乗車した人は普段見ることのできない上野池の景色を楽しんでいました。

来場者は「天気も良く、きれいな桜を楽しめた」とうれしそうに話しました。



▲オープントップバスから見える満開の桜

## 子どもの見守りのために

「企業版ふるさと納税」の寄付・3/28

No.3

全国の信用金庫を会員とする信金中央金庫から「企業版ふるさと納税」として、市へ1千万円が寄付されました。

信金中央金庫は創立70周年を記念して、自治体と地元信用金庫が協力して実施する地域創生事業を募集し、企業版ふるさと納税制度を活用した寄付を行っています。このたび、市と包括連携協定を締結している広島みどり信用金庫の推薦を受け、キャッシュレス決済カード「な・み・か」「ほ・ろ・か」による児童の見守り事業が採択されました。

この事業は、市内小学校に設置された「見守りステーション」に、児童が「な・み・か」「ほ・ろ・か」をかざすと、保護者にメールが届く仕組みです。今後は、今回の寄付を利用し、市内の全小学校で実施していきます。



▲信金中央金庫中国支店の三浦雅彦支店長（左）と木山耕三市長